

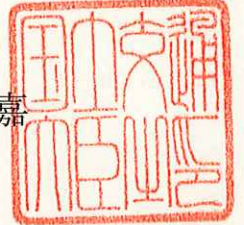
令和元年 11 月 19 日
交通政策審議会
港湾分科会防災部会
資料1-1

諮問文及び諮問理由

国港総第366号
令和元年11月11日

交通政策審議会
会長 古賀 信行 殿

国土交通大臣 赤羽 一嘉



交通政策審議会に対する諮問について

国土交通省設置法第14条第1項第1号の規定に基づき、下記事項について諮問する。

記

【諮問第338号】

今後の港湾におけるハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策のあり方

【諮問理由】

別紙のとおり

【諮問理由】

平成 30 年台風第 21 号や令和元年台風第 15 号及び 19 号では国際戦略港湾である阪神港、京浜港をはじめ多数の港湾で高潮・高波・暴風により港湾及びその背後地に浸水等の被害が発生し、我が国の社会経済に甚大な影響を及ぼしている。

また、9 月に公表された国連の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」による特別報告書では、「温室効果ガス削減が進まず、今世紀末の世界の平均気温が産業革命前より最大 5.4 度上がった場合、世界平均の海面水位は 1986 年～2005 年の平均に比べ最大で 1.1m 上昇する」とし、さらに「低緯度の多くの沿岸域では、100 年に 1 回程度の頻度で発生していた高潮災害などが、2050 年には毎年のように起こり、今世紀末までに世界中の沿岸域で発生する可能性がある。」と予測している。

他方、港湾は災害時において、被災地域への支援物資、自衛隊等の支援部隊の輸送拠点としての役割や、企業の生産活動に必要な物流を維持する役割を担っており、平成 28 年に発生した熊本地震、平成 30 年に発生した 7 月豪雨、北海道胆振東部地震では、陸上輸送が寸断した中で、重要な役割を果たした。

港湾における防災・減災対策については、地震・津波対策を中心に平成 24 年 6 月に交通政策審議会により「港湾における地震・津波対策のあり方」が答申されている。しかしながら、近年頻発している台風による高潮・高波・暴風や多発している地震への対応等を踏まえ、切迫する大規模自然災害のリスクや気候変動に伴う災害の激甚化への対応を加速する必要がある。

このような状況を踏まえ、インフラ整備による「公助」に加え、「自助」「共助」を含めたハード・ソフト一体となった今後の港湾における総合的な防災・減災対策のあり方についてとりまとめることとしたく、貴審議会に諮問するものである。

国交政審(港)第10号
令和元年11月11日

交通政策審議会 港湾分科会
分科会長 小林 潔司 殿

交通政策審議会
会長 古賀 信行



交通政策審議会港湾分科会への付託について

国土交通大臣から本審議会に対し、諮問第338号「今後の港湾におけるハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策のあり方」がありましたので、交通政策審議会運営規則第8条第1項の規定に基づき港湾分科会において審議され、その結果を報告されるようお願いいたします。

国交政審(港)第14号
令和元年11月18日

交通政策審議会 港湾分科会
防災部会長 殿

交通政策審議会 港湾分科会
分科会長 小林 潔司



交通政策審議会港湾分科会防災部会への付託について

交通政策審議会から港湾分科会に対し、「今後の港湾におけるハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策のあり方」が付託されましたので、交通政策審議会港湾分科会運営規則第9条第1項の規定に基づき防災部会において審議され、その結果を報告されるようお願いいたします。

交通政策審議会令（平成十二年政令第三百号）

（所掌事務）

第一条 交通政策審議会（以下「審議会」という。）は、国土交通省設置法第十四条第一項に規定するもののほか、陸上交通事業調整法（昭和十三年法律第七十一号）及びエネルギーの使用の合理化等に関する法律（昭和五十四年法律第四十九号）の規定に基づきその権限に属させられた事項を処理する。

（組織）

第二条 審議会は、委員三十人以内で組織する。

- 2 審議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員を置くことができる。
- 3 審議会に、専門の事項を調査させるため必要があるときは、専門委員を置くことができる。

（委員等の任命）

第三条 委員及び臨時委員は、学識経験のある者のうちから、国土交通大臣が任命する。

- 2 専門委員は、当該専門の事項に関し学識経験のある者のうちから、国土交通大臣が任命する。

（委員の任期等）

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。
- 3 臨時委員は、その者の任命に係る当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。
- 4 専門委員は、その者の任命に係る当該専門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。
- 5 委員、臨時委員及び専門委員は、非常勤とする。

（会長）

第五条 審議会に、会長を置き、委員の互選により選任する。

- 2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 3 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

（分科会）

第六条 審議会に、次の表の上欄に掲げる分科会を置き、これらの分科会の所掌事務は、審議会の所掌事務のうち、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

名称	所掌事務
交通体系分科会	一 交通体系の整備その他の交通政策であって総合的かつ基本的なものについて調査審議すること。 二 交通政策基本法（平成二十五年法律第九十二号）の規定により、並びにエネルギーの使用の合理化等に関する法律第百四条第三項、第百十二条第三項、第百十六条第三項、第百二十八条第三項、第百三十三条第三項及び第百四十二条第三項並びに陸上交通事業調整法の規定に基づき審議会の権限に属させられた事項を処理すること。
技術分科会	一 運輸技術及び気象業務に関連する技術の総合的かつ計画的な振興に関する重

	<p>要事項を調査審議すること。</p> <p>二 エネルギーの使用の合理化等に関する法律第十七条第五項、第二十八条第五項、第三十九条第五項、第四百四十六條第三項及び第四百四十八條第三項の規定に基づき審議会の権限に属させられた事項を処理すること。</p>
観光分科会	観光立国推進基本法（平成十八年法律第百十七号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。
陸上交通分科会	<p>一 鉄道、道路運送その他の陸上交通に関する重要事項を調査審議すること。</p> <p>二 全国新幹線鉄道整備法（昭和四十五年法律第七十一号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。</p>
海事分科会	<p>一 海運、造船に関する事業、船舶、船員及び船舶交通安全に関する重要事項を調査審議すること。</p> <p>二 海上運送法（昭和二十四年法律第百八十七号）、本州四国連絡橋の建設に伴う一般旅客定期航路事業等に関する特別措置法（昭和五十六年法律第七十二号）、造船法（昭和二十五年法律第百二十九号）、臨時船舶建造調整法（昭和二十八年法律第百四十九号）、船員法（昭和二十二年法律第百号）、最低賃金法（昭和三十四年法律第百三十七号）、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和三十五年法律第百二十三号）、船員災害防止活動の促進に関する法律（昭和四十二年法律第六十一号）、青少年の雇用の促進等に関する法律（昭和四十五年法律第九十八号）、勤労者財産形成促進法（昭和四十六年法律第九十二号）、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（昭和四十七年法律第百十三号）、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（平成三年法律第七十六号）、船員職業安定法（昭和二十三年法律第百三十号）、船舶職員及び小型船舶操縦者法（昭和二十六年法律第百四十九号）、水先法（昭和二十四年法律第百二十一号）及び海上交通安全法（昭和四十七年法律第百十五号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。</p>
港湾分科会	<p>一 港湾、航路及び港湾運送に関する重要事項を調査審議すること。</p> <p>二 港湾法（昭和二十五年法律第百十八号）、港湾整備促進法（昭和二十八年法律第百七十号）及び広域臨海環境整備センター法（昭和五十六年法律第七十六号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。</p>
航空分科会	<p>一 航空に関する重要事項を調査審議すること。</p> <p>二 空港法（昭和三十一年法律第八十号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。</p>
気象分科会	気象業務法（昭和二十七年法律第百六十五号）の規定により審議会の権限に属させられた事項を処理すること。

2 前項の表の上欄に掲げる分科会に属すべき委員、臨時委員及び専門委員は、国土交通大臣が指名する。

3 分科会に、分科会長を置き、当該分科会に属する委員の互選により選任する。

4 分科会長は、当該分科会の事務を掌理する。

5 分科会長に事故があるときは、当該分科会に属する委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

6 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決をもって審議会の議決とすることができる。

（部会）

第七条 分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員、臨時委員及び専門委員は、分科会長が指名する。

3 部会に、部会長を置き、当該部会に属する委員の互選により選任する。

- 4 部会長は、当該部会の事務を掌理する。
- 5 部会長に事故があるときは、当該部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。
- 6 分科会は、その定めるところにより、部会の議決をもって分科会の議決とすることができる。

(議事)

- 第八条 審議会は、委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 2 審議会の議事は、委員及び議事に関係のある臨時委員で会議に出席したものの過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
 - 3 前二項の規定は、分科会及び部会の議事に準用する。

(庶務)

- 第九条 審議会の庶務は、国土交通省総合政策局総務課において総括し、及び処理する。ただし、交通体系分科会、技術分科会、観光分科会、陸上交通分科会、海事分科会、港湾分科会、航空分科会及び気象分科会に係るものについては、次項から第九項までに定めるところにより処理する。
- 2 交通体系分科会の庶務は、国土交通省総合政策局交通政策課において処理する。
 - 3 技術分科会の庶務は、国土交通省総合政策局技術政策課において処理する。
 - 4 観光分科会の庶務は、観光庁総務課において処理する。
 - 5 陸上交通分科会の庶務は、国土交通省鉄道局総務課において総括し、及び処理する。ただし、道路運送及び道路運送車両に関する重要事項に係るものについては、国土交通省自動車局総務課において処理する。
 - 6 海事分科会の庶務は、国土交通省海事局総務課において処理する。
 - 7 港湾分科会の庶務は、国土交通省港湾局総務課において処理する。
 - 8 航空分科会の庶務は、国土交通省航空局総務課において処理する。
 - 9 気象分科会の庶務は、気象庁総務部において処理する。

(雑則)

- 第十条 この政令に定めるもののほか、議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この政令は、平成十三年一月六日から施行する。

交通政策審議会運営規則

(趣旨)

第1条 交通政策審議会（以下「審議会」という。）の議事の手続きその他審議会の運営に関し必要な事項は、交通政策審議会令に規定するもののほか、この規則の定めるところによる。

(会議の招集)

第2条 審議会は、会長が招集する。

2 会長は、審議会を招集するときは、あらかじめ、会議の日時、場所及び審議事項を委員、当該議事に関係のある臨時委員及び専門委員（以下「委員等」という。）に通知する。

(書面による議事)

第3条 会長は、やむを得ない事由により審議会の会議を開く余裕のない場合においては、事案の概要を記載した書面を委員及び当該議事に関係のある臨時委員に送付し、その意見を徴し又は賛否を問い、その結果をもって審議会の議決に代えることができる。

(議長)

第4条 会長は、議長として審議会の議事を整理する。

(委員等以外の者の出席)

第5条 会長は、必要があると認めるときは、委員等以外の者に対し、審議会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

(議事録)

第6条 審議会の議事については、議事録を作成するものとする。

(議事の公開)

第7条 会議又は議事録は、速やかに公開するものとする。ただし、特段の理由があるときは、会議及び議事録を非公開とすることができる。

2 前項ただし書の場合においては、その理由を明示し、議事要旨を公開するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、会議、議事録又は議事要旨の公開により当事者若しくは第三者の権利若しくは利益又は公共の利益を害するおそれがあるときは、会議、議事録又は議事要旨の全部又は一部を非公開とすることができる。

(分科会)

第8条 会長は、必要があると認めるときは、調査審議事項を分科会に付託することができる。

2 分科会の議決は、会長が適当であると認めるときは、審議会の議決とすることができる。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、審議会の議事の手続きその他運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規則は、平成13年3月13日から施行する。

交通政策審議会港湾分科会運営規則

(趣旨)

第1条 港湾分科会（以下「分科会」という。）の議事の手続きその他分科会の運営に関し必要な事項は、交通政策審議会令に規定するもののほか、この規則の定めるところによる。

(会議の招集)

第2条 分科会は、分科会長（以下「会長」という。）が招集する。

(会議の通知)

第3条 会長は、分科会を招集するときは、あらかじめ、会議の日時、場所及び審議事項を委員、当該議事に関係のある臨時委員及び専門委員（以下「委員等」という。）に通知する。

(書面による議事)

第4条 会長は、やむを得ない事由により分科会を開く余裕のない場合においては、事案の概要を記載した書面を委員及び臨時委員に送付し、その意見を徴し又は賛否を問い、その結果をもって分科会の議決に代えることができる。

(議長)

第5条 会長は、議長として分科会の議事を整理する。

(委員等以外の者の出席)

第6条 会長は、必要があると認めるときは、委員等以外の者に対し、分科会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

(議事録)

第7条 分科会の議事については、議事録を作成するものとする。

(議事の公開)

第8条 会議又は議事録は、速やかに公開するものとする。ただし、特段の理由があるときは、会議及び議事録を非公開とすることができる。

2 前項ただし書の場合においては、その理由を明示し、議事要旨を公開するものと

する。

- 3 前2項の規定にかかわらず、会議、議事録又は議事要旨の公開により当事者若しくは第三者の権利若しくは利益又は公共の利益を害するおそれがあるときは、会議、議事録又は議事要旨の全部又は一部を非公開とすることができる。

(部会)

第9条 会長は、必要があると認めるときは、調査審議事項を部会に付託することができる。

- 2 部会の議決は、会長が適当であると認めるときは、分科会の議決とすることができる。

(庶務)

第10条 分科会の庶務は、国土交通省港湾局総務課において総括し、及び処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、分科会の議事の手続きその他運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規則は、平成13年7月9日から施行する。